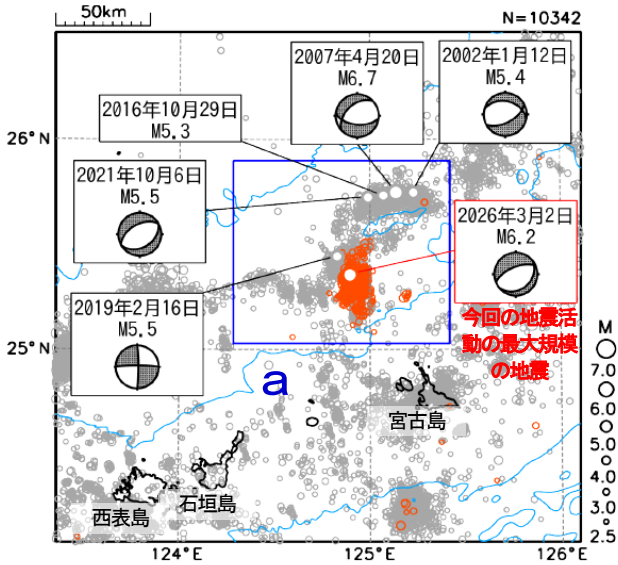


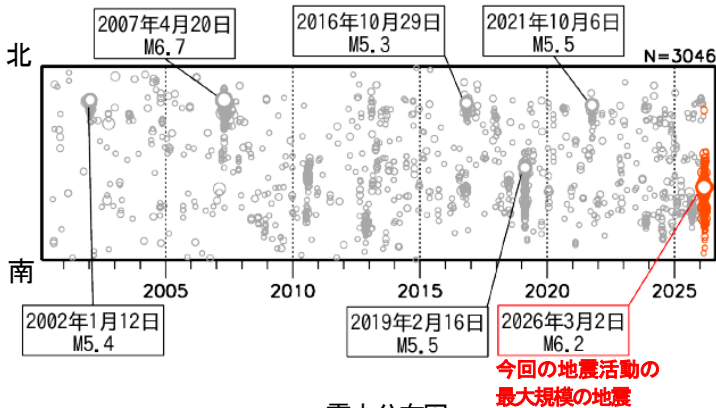
# 宮古島北西沖の地震活動

震央分布図  
(2000年7月1日～2026年3月31日、  
深さ0km～50km、 $M \geq 2.5$ )  
2026年2月26日～3月31日の地震を赤色で表示  
図中の発震機構はGMT解

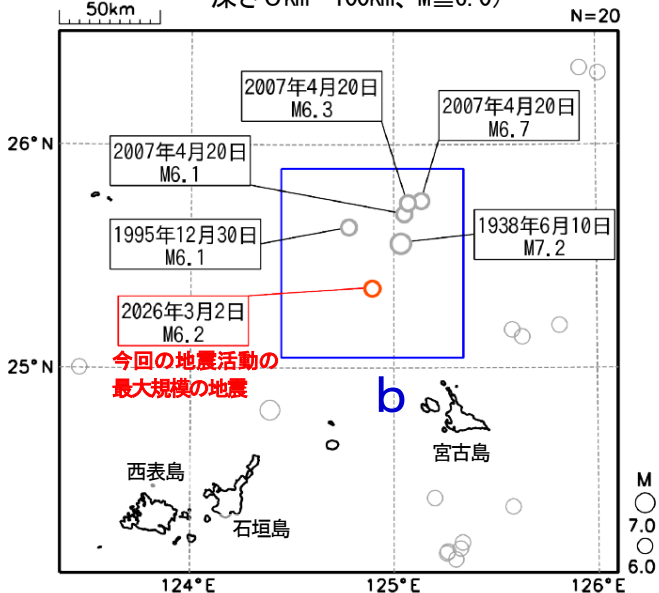


図中の水色の等値線は、水深1500mを示す

領域a内の時空間分布図 (南北投影)  
(2000年7月1日～2026年3月31日)



震央分布図  
(1919年1月1日～2026年3月31日、  
深さ0km～100km、 $M \geq 6.0$ )

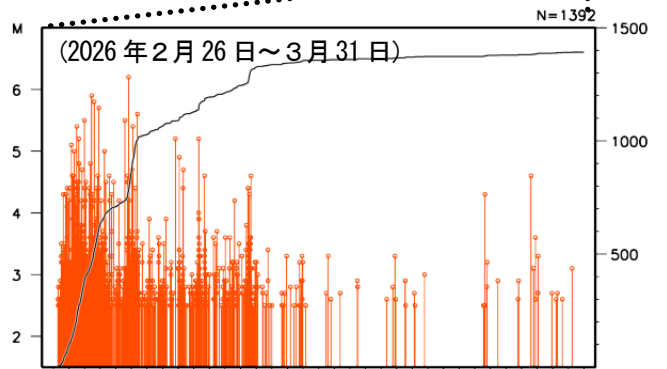
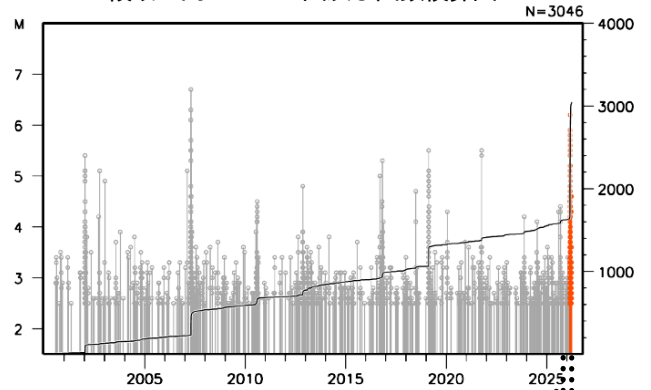


宮古島北西沖では、2026年2月26日から地震活動が活発となり、2月26日から3月31日までに震度1以上を観測する地震が32回 (震度3:1回、震度2:13回、震度1:18回) で、これら一連の地震活動は、沖縄トラフ沿いで発生している。このうち最大規模の地震は3月2日19時39分に発生したM6.2の地震 (最大震度3) で、発震機構 (CMT解) は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型で陸のプレート内で発生した。

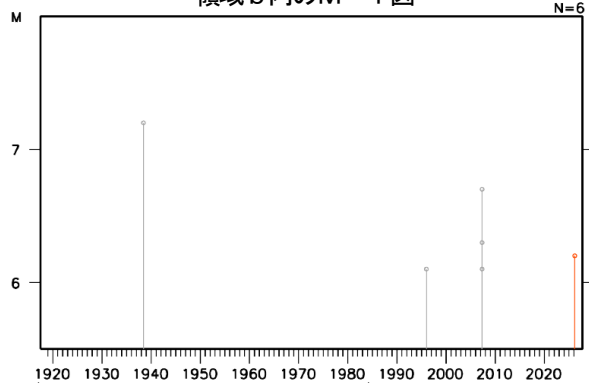
2000年7月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域a) では、M5.0以上の地震活動が時々見られる。2007年4月20日には、M6.7の地震 (最大震度3) が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域b) では、M6.0以上の地震がまれに見られる。1938年6月10日にはM7.2の地震 (最大震度4) が発生しており、宮古島平良港に地震後10分で津波が襲来して高さ1.5m (目視による最大の高さ)、栈橋の流出などの被害があった (被害は、日本被害地震総覧による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



この期間地震の検知能力が低い

気象庁作成